

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1191800042
法人名	医療法人眞幸会
事業所名	てしろケアモールグループホームてしろ
所在地	340-0021 埼玉県草加市手代町1006-10 (電話) 048-927-9090

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(20年3月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11人, 非常勤 5人, 常勤換算	13.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,200 円	その他の経費(月額)	24,800円 + 実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	540 円
	夕食	540 円	おやつ	100 円
または1日当たり1,680円				

(4) 利用者の概要(3月17日現在)

利用者人数	13 名	男性	5 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	9 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草加松原整形外科医院、草加松原整形外科医院青柳分院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、母体が医療法人であり多くの施設を経営しており、認知症デイサービス、デイサービス、ヘルパーステーションを併設し、多機能に事業を展開している。建設して1年目の施設なため新しくきれいである。利用者の食事は外注業者が入り、調理、洗浄すべてを行っている。昼食は、大皿で用意しており、利用者が食べる分を自分で盛って食べている。ホーム内は、各ユニットを自由に往来できる構造になっており、特に決め事をする事無く利用者は毎日自由に過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価、外部評価の意義とねらいを理解し、管理者を中心に全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) まだ開催していないが、今後、開催に向け運営推進会議の内容を検討し、各関係機関、家族と連携を図りながら開催をする予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 施設玄関に「意見箱」を設置している。面会時には、家族から意見を聞いたり話を聞いて対処している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。町会長とも話し合いをもち顔見知りになることから始め、地域の行事にも積極的に参加し、外出時には挨拶を必ずして地域の人達との交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に職員と話し合いをし、地域を重要視した内容を織り込んだ地域密着型サービスの理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員がいつも目につく場所に掲示し、毎月のミーティングで、理念についての反省点、注意点を話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、行事その他のイベントに積極的に参加して地域の人々と顔見知りになり、つながりを保てるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して1年未満であるが、職員全員で自己評価に取り組み、サービスの向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はまだ運営推進会議の実施には至っていない。		今後は、利用者、家族等、地域住民、市担当者等に参加を働きかけ、運営推進会議開催に向け取り組んでいかれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設1年ということもあり、何かとわからない事が多いため、質問や相談を市担当者に積極的に行っている。また、草加市の一時避難を受け入れるなど、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者一人ひとりの「たより」を担当制で作成し、家族に送付している。また、面会時には利用者の日常の様子を伝えるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置し、家族からの意見などを受け入れられるようにしている。また、家族会を発足し、意見、要望等を出しやすくしていくことを検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年未満の施設なため、今のところ職員の異動はないが、利用者のダメージが最小限となるように配慮し、人員を配置している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設で毎月研修を実施している。また、外部での研修も案内を掲示しており、必要に応じて各自で参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業施設と相談を通じて交流や勉強会の機会を持ち、埼玉県の協会の研修にも参加し、知り合いになった人達と情報の交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>一階にある認知症デイサービスを利用してもらい、ホームの雰囲気や職員等に慣れてもらってから入居の形を取り、徐々に馴染めるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>散歩時に、利用者に花の名前を覚えてもらったり、人生の先輩として生活の知恵、料理の仕方を覚えてもらったりしている。職員は、ホームでの生活を家庭の延長として共に共同で行うように努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の意向を聞き、希望に添った支援を行っている。意向の聞き取れない利用者には、家族から聞いたり、本人の行動などから読み取り支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がより良く暮らせるように、本人、家族の意向を聞き、計画作成担当者がサービス計画書を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、ミーティングを行い見直しを実施している。利用者の言葉、行動など職員は気づいたことをメモにとり、計画の作成、見直しを行う時に役立てている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎をするなど臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診日には受診できる準備をし、病状等を家族に伝えている。透析を受けている利用者には、今まで受けていた病院で透析を受けてもらうなど配慮している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、契約時には、看取りまでは出来ない事を説明している。		利用者や家族が安心して過ごせるように、日常の健康管理や急変時の対応について話し合い、職員間で方針を統一し共有していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を重要視し、傷つけるような声がけはしないよう言葉遣いには気をつけて支援している。記録類についても管理を厳重にしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まり事はなく、利用者の希望に添って、これまでの生活が継続出来るよう自由に過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は大皿で用意され、食べ物を利用者が好きなだけ取り食べている。利用者と職員と一緒に盛り付けたり、湯のみを洗ったり準備にとりかかり、後片付けも共にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な曜日は決まっているが、利用者の状態や意向に合わせて入浴の支援をしている。また、冬至にはゆずを浮かべるなど、入浴を楽しめるような配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、食事の準備、洗濯物をたたむなど、今までの生活を活かした支援が行われている。また、認知症デイサービスの指導員に学習教材を使った指導をしてもらったりもしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、利用者の希望に応じて、買い物、散歩など外出の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット入り口の鍵は、ドアの上下にあり普段は掛けていない。利用者の状態によっては掛ける事もあるが、利用者は鍵を自分で開けることが出来、可能な限り職員が付き添い外出している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策委員会を内部で開き、避難訓練を行っているが、消防署の立会いのもとでの訓練はまだ行っていない。		消防署との連携を図り、地域の人々に働きかけをして協力が得られるような体制作りに取り組んでいくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者には定期的に飲み物を提供し、希望があれば、そのつど飲み物を提供している。食事量、水分摂取量は記録しチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔、衛生に気をつけ、共用の空間(リビング、台所)には、余分なものはなく、すっきりと片付いている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、家族の写真、今まで使用していた家具、思い出の賞状などを居室に置き快適に過ごせるようにしている。		